

令和六年度 一般選抜（前期日程）

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、表紙を含めて6ページあります。また解答用紙2枚と下書き用紙1枚が配付されています。
- 試験中に問題冊子や解答用紙、下書き用紙の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入してください。
 - （1） 受験番号欄
 - （2） 氏名欄
- 4 受験番号、氏名が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
- 5 設問の字数には句読点が含まれます。
- 6 試験終了後、問題冊子、下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ヒトの未来

私たちが生きていないような遠い将来は、どうでもいいように思う方もおられるかもしれませんが、私たちがいま存在するように、私たちの子孫も存在していて欲しいと願いつつ、想像してみることになります。未来は、私たちがいま、どういう選択をするかで大きく変わってくるのですから。

人間社会は現在、集団を大切に考えるから、より個人を大切に考える方への転換という意味で大きな分岐点にあります。ヒトは、集団(社会)で進化してこまできました。複雑な言葉も豊かな表情やジェスチャーも、全てコミュニケーションのために発達してきたのです。本書でお伝えしてきたように「進化が生き物を作った」と考えれば、コミュニケーションがうまく、より社会的な個体ほど選択されて、子孫をたくさん残してきたのです。

従来のコミュニケーションは、人と直接会って話をするというアナログ的なもので、ここでは、見た目や声の調子、雰囲気が必要な情報源でした。しかしご存じのように、現在のコミュニケーションツールのメインは、スマホやパソコンといった電子媒体です。このデジタル信号情報を介したコミュニケーションでは、単なる情報のやり取りが多く、「心」のコミュニケーションは、たとえ絵文字や画像を駆使しても、どうしても今までとは違ってくる部分が出るでしょう。

私の知り合いで、実際にお会いすると温厚で優しい方なのですが、メールでは結構過激なことをズバッと言う人がいます。別の人がメールを書いているのではと思うくらいです。そのギャップについてご本人に聞いてみると、キーボードを叩き始めると別人格が降りてくるそうです。もちろん逆のパターンもあります。人によっては、キーボードに限らず車のハンドルを握ると急に激しい性格になったり、外国で英語を使って話し始めると急に性格が明るくなったりする人もいます。楽器の演奏やダンスもそうです。私たちはもともと色々な面を持っていて、それがメールや楽器といった「表現するツール」によって、違って表に現れてくるのです。

ある種のアバター(分身)と言ってもいいかもしれません。いろんなアバターがいるのです。デジタルコミュニケーションでは、アバターの出現は日常化してきます。実際に、ネット上で別の名前、性別、年齢で、人とコミュニケーションをとり続けることも可能です。どうせ実物とは会わないのであれば、どうでもいいのです。実際に、SNSでは4割の人が人格を変えて書き込んでいるという調査結果もあります。

アバターによるネットを介したコミュニケーションのいい面としては、入力さえ可能であれば、バリアフリーに誰とでもコミュニケーションをとれることです。極端な話、アバターが人ではなく、AI（人工知能）でも同じことです。AIも人が情報を入れ込むことで、ヒトっぽい存在にすることができます。ヒトに創造された人格という意味では、AIもアバターです。また、コミュニケーションのみならず情報源、仕事のツールとしてもネットを介して行うことが中心となっています。極端に言ってしまうえば、あまりヒトと会わずに生きられるのです。現に多くの人は、かなりの時間、コンピュータに向かって仕事をしています。

AIの出現で人類の進化の方向が変わる!?

さて、生物の進化の話に戻りますが、このアバターも **ア** AIアバターも進化によって出てきたわけではなく、ヒトが作り出したいわば「ネット人格」です。彼らは仮想空間で生きていますが、時には友人のようにアドバイスし、確実に我々の生活や生き方に影響を与えます。AIに至っては、ある面においては、ヒトよりはるかに優れていて、画像診断など大変頼りになる分野もあります。ヒトのアバターも、本人とは相当逸脱した人格になる可能性があります。

膨張している「ネット人格」の存在は、今後地球上のリアルなヒトの進化——つまり「変化と選択」にどのような影響を与えるのでしょうか。

ある研究者は「シンギュラリティ（AIがヒトの能力を超えてしまう技術的な転換期）」が起こり、ヒトの仕事の半分近くはAIに取って代わられると予測しています。このシンギュラリティによりヒトが仕事を失って不幸になるのか、あるいはロボットに助けられて幸せになるのかは、あまり議論されていませんが、どちらかと言うと不安を煽るような見方で「**イ** 将来消えてしまう職業」というような報道が多いと思います。現在、その「将来消えてしまう職業」に就いている人はいい気分ではないですね。

逆に、AIの進出で将来増える職業はあるのかというと、システムエンジニアとかプログラマーとかとなりますが、こちらもAI自身によるプログラミングが進むと、ヒトはもはやそれも理解できなくなる可能性があります。つまり確実に職業の選択肢が減るのです。

このように考えると、あまり良いところはなさそうです。さらにはAIとうまく共存していかないと、逆に生きにくくなる可能性があります。こうなるとAIは便利な道具というよりは、ヒトより知能が進んだエイリアンの存在となりますね。そして進化的には、AIとうまく付き合える人が「選択」されるのかもしれない。一番困るのは、AIが何か

の理由、例えば新型コンピュータウイルスなどで使えなくなると、もうどうにもなりません。

死なないAIとヒトはどのように付き合えばいいのか

もう少し、AIと共存していく社会について、考えてみましょう。AIは何らかの答えを出してくれますが、問題はその答えが正しいかどうかの検証をヒトがするのが難しいということです。大切なことは、何をAIに頼って、何をヒトが決めるのかを、しっかり区別することでしょう。

よく使われるものとして、データをコンピュータに学習させて、それを基に分析を行う機械学習型のAIがあります。これは過去の事例からの条件（重み付け）にあった最適な答えを導き出すので、その学習データの質で答えが変わってきます。画像診断AIのように、見落としがないかなど医師の診断を助ける道具としては非常に役に立ちます。ただ、例えば過去の事例にないケースの判断は難しいのですが、その場合には「正解を知っている」医師が判断すればいいので問題はありません。

機械学習型ではなく、SF映画に登場するヒトのように考える汎用型人工知能はどうでしょうか？ まだ開発途中ですが、さまざまな局面でヒトの強力な相談相手になることが期待されています。こちらはヒトが「正解を知っている」わけではないので、使い方を間違うとかなり危険だと思っています。なぜなら、ヒトが人である理由、つまり「考える」ということが激減する可能性があるからです。一度考えることをやめた人類は、それこそAIに頼り続け、「主体の逆転」が起こってしまいます。ヒトのために作ったはずのAIに、ヒトが従属してしまうのです。

ではそうならないようにするには、どうすればいいのでしょうか。私の意見としては、決して「ヒトの手助け」以上にAIを頼ってはいけないと思います。あくまでAIはツール（道具）で、それを使う主体はリアルなヒトであるべきです。

「いや、AIのほうが賢明な判断をしてくれるよ」とおっしゃる方もおられるでしょう。しかし、それは時と場合によります。いつも正しい答えが得られるという状況は、ヒトの考える能力を低下させます。ヒトは試行錯誤、つまり間違えることから学ぶことを成長と捉え、それを「楽しんで」きたのです。喜劇のコントの基本は間違えて笑いを誘い、最後はその間違いに気づくことが面白いのです。逆に「悲劇」は、取り返しがつかない運命に永遠に縛られることに、恐怖と悲しみを覚えるのではないのでしょうか。

AIは、人を楽しませる面白い「ゲーム」を提供するかもしれませんが。しかし、リアル

な世界では、AIはヒトを悲劇の方向に導く可能性があります。そして何よりも私が問題だと考えるのは、AIは死~~ない~~、死~~ない~~ということなのです。

私たちは、たくさん勉強しても、死んでゼロになります。そのため、文化や文明の継承、つまり教育に時間をかけ、次世代を育てます。一世代ごとにリセットされるわけです。死なないAIにはそれもなく、無限にバージョンアップを繰り返します。

私は1963年の生まれで、大学生の時(1984年)にアップル社からマッキントッシュ(Mac)のコンピュータが発売され、その後ウィンドウズが誕生したのを体験してきました。ゲームも、フロッピーディスクに入った「テトリス」を8インチの白黒画面でハイスコアを競ったものです。その後のパソコン、ゲーム機、スマホなどの急速な進歩は、本当に驚きです。

私はコンピュータの急成長も可能性も脆弱性も知っている「生みの親」世代です。そしてコンピュータが「生みの親」より賢くなつていくのを体感してきました。だからこそAIの危険性、つまりこのままいったらやばいと直感的に心配になるのかもしれませんが。いつまで経っても子供が心配な親の心境に似ています。

そのウ危機感について、自分の子供に相当する世代には警鐘を鳴らすことができますが、孫の世代にはどうでしょうか。孫たちにとってはヒト(特に親)の能力をはるかに凌駕^{りようが}したコンピュータが生まれながらにして存在するのです。タブレットで読み・書き・計算を教わり、私情が入らないようにと先生代わりのAIが成績をつけるといふ時代にならないとも限りません。そんな孫の世代にとっては、AIの危険性よりも信頼感のほうが大きくなるのは当然です。

死なないAIは、私たち人間と違って世代を超えて、進歩していきます。一方、限られた私たちの寿命と能力では、もはや複雑すぎるAIの仕組みを理解することも難しくなるかもしれませんね。人類は1つの能力が変化するのに最低でも何万年もかかります。その人類が自分たちでコントロールすることができないものを、作り出してしまったのでしょうか。

(小林武彦 「生物はなぜ死ぬのか」 講談社現代新書2615、2021年より抜粋、一部改変)

問
1

傍線部**ア** AIアバターについて、筆者はAIアバターをどのような存在と考
えているか、本文中の語句を使用し、それぞれ25字以内で3つ書きなさい。

問
2

傍線部**イ** 将来消えてしまう職業とは反対に、消える可能性が低い職業の特
徴について、本文にある職業を除き、医療職以外の具体的な職業を2つ示
しながら、あなたの考えを250字以内で書きなさい。

問
3

傍線部**ウ** 危機感について、筆者が感じている危機感を本文中の語句を用い
て80字以内で要約しなさい。

問
4

死なない、進歩しつづけるAIと、有限な命を持っているからこそ、「生きる
価値」を共有できるヒトが共存していくために何が必要だと思いますか。将
来ヒトとかかわる職種である医療職を目指す立場で、AIの功罪も含め、あ
なたの意見を600字以内で書きなさい。

採点のポイント

問1 問の命題について、指定された文字数で本文より著者の考えを3つ抽出し、簡潔に述べる
ことができるかを採点しています

解答例

- ① AIが生み出したヒトっぽい存在
- ② 仮想空間で生きていて優れた大変頼りになる存在
ヒトよりはるかに優れていて大変頼りになる存在
- ③ 確実に我々の生活や生き方に影響を与える存在

問2 問の命題について、指定された文字数で自分の考えを、具体的な例を示し記述すること
ができるかを、次の観点から採点しています。

- ① 「消える可能性の低い職業」と「消える職業」の特徴に関する記述
- ② 消える可能性の低い職業に関する具体例を2つ記述
- ③ 文章力（構成、文法、語彙など）

問3 問の命題について、指定された文字数で 本文の主張を理解し、簡潔に述べることで
きるかを、次の観点から採点しています。

- ① 次の語句が最低一つ使用されている
 - (ア) 人が考え得ることをやめる
 - (イ) 主体の逆転
 - (ウ) 考えることが激減
 - (エ) 人より知能が進む
 - (オ) うまく共存していかないと、逆に生きにくくなる可能性
 - (カ) AIにヒトが従属する
 - (キ) 人より賢くなっていく など
- ② 文章力（構成、文法、語彙など）

問4 問の命題について、指定された文字数で、著者の主張を理解し、医療職をめざす自分自
身の意見を述べることを、次の観点から採点しています。

- ① 読解力（著者の主張に対する理解）
- ② 医療職を目指す自分自身の意見
- ③ 文章力（構成、文法、語彙など）